

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月 日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神奈中タクシー株式会社	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント 119箇所)及び一部町外(乗降 ポイント1箇所)を対象としたデ マンド型交通システム(区域運 行型)</p> <p>運行日:月曜日～金曜日</p> <p>運行時間:7時～19時</p> <p>運賃: 町内 大人200円、小人100円 町外 大人400円、小人200円</p>	<p>アフターコロナ、ウィズコロナを 見据え、利用促進に関するイ ベント等を実施できるよう、行 政からもバックアップすべきと いう評価結果を受け、利用者 等との座談会を開催した。町内 7か所に出向き、利用促進につ なげるため、事業の案内や意 見交換を行った。また、令和4 年10月から開始した65歳以上 の方及び妊産婦について希望 の降車ポイントで降車ができる サービスは、利用者から評価を 得ており、引き続き対象者の検 討を行い継続していく。</p>	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	B 事業が計画に位置付けら れた目標を達成できていな い点があった。 目標:利用者数 42人/日 実績:利用者数 30人/日 分析:利用者の生活スタイル の変化や、小中学生の 減少に伴って、バスの利用 機会も減少したことによると 考える。 しかし、交通空白地域の在 住者、運転免許を持たない 交通弱者など本来救うべき 移動手段の無い人等の利用 は一定の件数で推移して おり、目的を果たしているも のと考える。 また、登録者数も微増で推 移しており、路線バスを補 完する移動手段としては一 定程度の利用が維持され ている。	<p>現行の運行体制で、交通空白 地域の在住者や交通弱者等が 利用しやすい環境が一定程度 維持されているが、利用登録し たものの利用がない方の利用 促進や、新規利用者の獲得が 課題。 座談会での周知や情報誌への 記事の掲載により、新規で利 用登録される方が増加したの で、今後も積極的な広報に努 める。 引き続き、路線バスを補完する フィーダー的役割を担っている オンデマンドバスの安定的な運 行を図るとともに、障害や年齢 などに関係なく、誰もが安心・ 快適に移動できるしゅみを検討 し、町の交通網全体を機能的 なものにしていくことを目指す。</p>

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月 日

協議会名：	中井町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中井町には鉄道駅がなく、最寄り駅までは路線バスが運行されているが、町内の広範囲にわたり公共交通空白地域が点在している。また、丘陵地のため坂道が多く、高齢者や児童など自動車を運転できない人の移動に支障を来している。</p> <p>町唯一の公共交通手段は民間路線バスが担っているが、一部の路線では赤字となっており、日常生活に必要な最低限の交通手段の確保及び住民の移動ニーズに合った交通手段の提供といった公共交通の充実のためには、将来に向けた中井町全体の公共交通計画が必要である。また、通勤・通学者や高齢者などの利用者や交通空白・不便地区の住民などの地域のきめ細やかなニーズを把握し、既存の公共交通機関と連携して利便性の高い公共交通体系を構築することが必要である。</p> <p>本町では、公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、平成25年1月から中井町オンデマンドバスを運行しており、今後も誰もが安心・快適に移動できるしくみを検討しながら、地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取組を継続していく。</p>